

令和4年度 八尾市指定文化財（その1）

名 称	八尾南遺跡出土 ^{ぎじょうがた} 儀仗形木製品	種 別	考古資料
所 有 者	八尾市	所在地	八尾市立歴史民俗資料館（八尾市千塚三丁目 180 番地の1）
員 数	1 点	時 代	古墳時代前期（4 世紀）
解 説	<p>1. 八尾南遺跡出土 儀仗形木製品について</p> <p>八尾南遺跡は市域南端に位置し、弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡です。儀仗形木製品は、八尾南遺跡調査会が昭和 53～54 年（1978～1979）に行った八尾南駅新設に伴う発掘調査で検出した井戸から出土しました。</p> <p>儀仗形木製品は、有力者が行った儀式や祭祀の場で使われた杖です。全長 43 cm ありますが、本来は 1m 前後の長さがあったとみられます。杖の先端は壺形を呈しており、丁寧に磨いて仕上げられています。壺形の平坦面に二又に分かれる立ち飾りがついた痕跡があります。ともに見つかった小型丸底壺から古墳時代前期のものとなりました。</p> <p>2. 指定の意義</p> <p>類例の少ない、頭部が壺形を呈したのものとしては最古例で、古墳時代前期の儀礼について知ることができる重要な考古資料です。</p>		



儀仗形木製品



頭部の壺形の拡大

令和4年度 八尾市指定文化財（その2）

名 称	高安千塚古墳群郡川南支群 郡川16号墳出土品	種 別	考古資料
所 有 者	八尾市	所在地	八尾市立歴史民俗資料館（八尾市千塚三丁目180番地の1）
員 数	一括（51点：土器42点、耳環1点、鉄製品6点、石製品2点）	時 代	古墳時代後期 （石製品は時期不明）
解 説	<p>1. 高安千塚古墳群郡川南支群について</p> <p>高安千塚古墳群は、大字服部川を中心とした地域に高安山麓につくられた230基の横穴式石室を主体とする6世紀代を中心とした古墳群です。郡川16号墳は、古墳群南端の郡川南支群にあり、最古形式である穹窿（ドーム）状天井の右片袖式の横穴式石室を有する直径約15mの円墳です。</p> <p>2. 出土品について</p> <p>昭和41年（1966）の大阪府教育委員会による調査で石室内から出土しました。須恵器や土師器、ミニチュア炊飯具（竈・鍋）、韓式土器が計42点、耳環1点、鉄釘5点、鏝1点、石製品の玉2点があります。出土した須恵器から、6世紀初頭の埋葬以降、7世紀までの長期にわたり埋葬が行われたことがわかりました。</p> <p>3. 指定の意義</p> <p>穹窿状天井の石室形態や釘付きの木棺、ミニチュア炊飯具、韓式土器の副葬品から、朝鮮半島との密接な交流を示す、高安千塚古墳群開始期の初現となる古墳からの出土品で、高安千塚古墳群の性格を考えるうえで重要です。</p>		



郡川16号墳出土品：須恵器 坏蓋、土師器 ミニチュア炊飯具・韓式土器